

JA都市農村交流全国協議会
企画運営専門部会第4分科会 第1回会議資料

JA都市農村交流 課題の抽出
「JAくらしの活動」間における連携について

平成22年7月28日

JA都市農村交流全国協議会

【第4分科会】

「JAくらしの活動」間における連携について

＜課題候補＞

1. 高齢者の活動支援メニューとの連携
2. 地域が一体となったJA食農教育プログラムの展開
3. JAファーマーズ・マーケットを活用した交流の展開
4. 貸農園・体験農園の整備・活用
5. JA女性組織と連携した取り組み

課題候補 1

【高齢者の活動支援メニューとの連携】

健康づくり・いきがづくりの一環として、都市農村交流における高齢者の豊富な経験と知識に裏打ちされた役割を活かせる取り組みと仕組みが必要である。

健康寿命100歳プロジェクトにおける役割の明確化をおこなう。

課題候補 1

(1) 理由

高齢者や中高年層が子どもや地域外の人たちとふれあい、交流することが、

- ① 教えることが生み出す高齢者の喜びからいきがいへとつながり、健康にも効果的、またなかまづくりにも有効である。
- ② 地域文化や郷土料理の継承・伝承につながる。
- ③ 昔からの地域特有の「良さ」が活かされていない。
- ④ 地域の観光資源の再発見を担う役割が期待できる。

課題候補 1

(2) 現状・事例

- ① 同地域における同世代どうしの場づくりが多い。
- ② JAは生活、金融等、対応が一元化されておらず、活動の連携がはかられていない。
- ③ 高齢者が持っている豊富な知識と経験、技術等が整理されていない。

※ 今の農業の現状も伝える必要がある。

課題候補 1

(3) 懸念されること

- ① その地域に伝わる無形の伝統や文化を継承できない。
- ② 高齢者のいきがいつくりに活用されない。
- ③ 伝統的な家屋、農機具等がなおざりになる。
- ④ 高齢者の地域で孤立・孤独化が進んでいく。

課題候補 1

(4) 解決に向けた整理の方向

- ① 地域文化や郷土料理、農機具等の調査保存。
- ② 高齢者が活躍するプログラムの作成。
- ③ JAが対応を一元化できる仕組みの検討。

課題候補 2

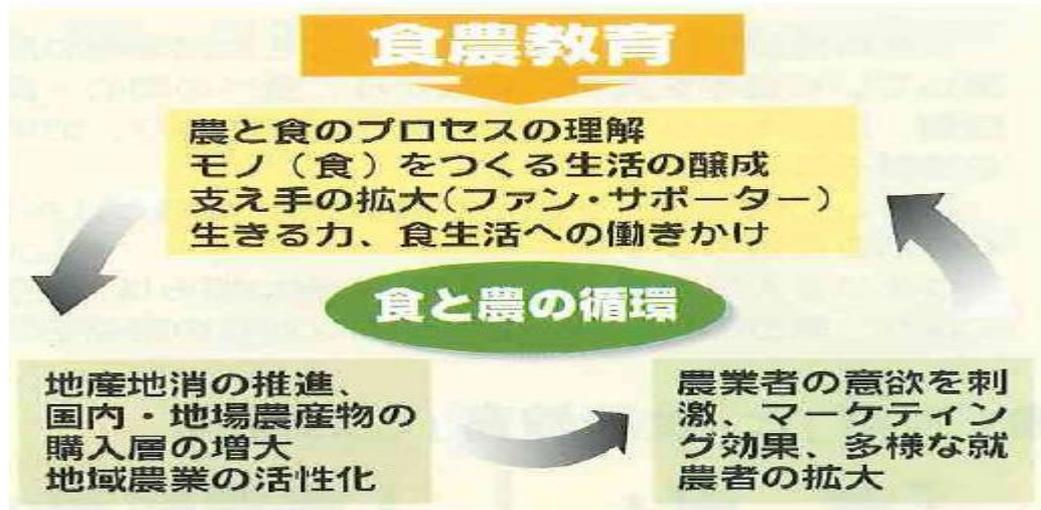
【地域が一体となったJA食農教育プログラムの展開】

都市部JAと農村部JAが連携をはかり、消費者が地域内外の農業を学ぶ機会を提供する仕組みづくりが必要であり、特に都市部の子どもたちに向けた取り組みの強化が必要である。

課題候補 2

(1) 理由

- ① JAの店舗がない地域に対する「JA食農教育」が浸透しておらず、次世代に向けた取り組みとなっていない。
- ② 消費者が「農」から「食」へとつながるプロセスを理解し、国産農産物の購入を増大させることが、農業者の生産への意欲になり、「食と農の循環」につなげることができる。



課題候補 2

(2) 現状・事例

- ① JA、団体が各々取り組んでいるが、プログラムとして整理・確立していない。
- ② 農業体験、料理体験や農産物加工体験等が一連のプログラムになっていない。
- ③ 単発的な農業体験が多く、周年的な取り組みが少ない。
- ④ JAでは地域内を対象とした取り組みが多い。
- ⑤ 「出前授業」等の取り組みはあるが、まだまだ少ない。

課題候補 2

(3) 懸念されること

- ① 体験プログラムに広がりを持ってない。
- ② プログラムが単一の傾向となっていて、体系だてたものになっていない。
- ③ 受入れ体制(担当者)が十分でない。
- ④ 子どもの体験が感動的に親に伝わらず、波及効果が期待できない。

課題候補 2

(4) 課題に向けた整理の方向

- ① JAおちいまばり農産物直売所「さいさいきて屋」における「さいさいキッズクラブ」の調査。

一年間を通じて農業体験や料理体験をおこない、自然と触れ合い楽しみながら、食の大切さを学んでいく。



田植え体験の様子



田んぼや川の生き物調査

課題候補 2

(4) 課題に向けた整理の方向

- ② (社)家の光協会が支援する「あぐりスクール」との連携の考究。



5月から来年1月にかけて9回実施します。(JA栗っこ)

課題候補 2

(4) 課題に向けた整理の方向

③ JAこども村の周年化への取り組みを検討。

JAはだの夏休み子ども村開催!
第14回

JA間交流による「夏休み子ども村」は、子どもたちが農業の大切さ・自然のすばらしさを知るきっかけとなり、自身の成長を目的に行っています。今年は上信越国立公園内、標高1,800mにある万座温泉や志賀高原を舞台に、野菜の収穫体験や川遊びなどのさまざまなカリキュラムを満喫する計画です。2泊3日の楽しいカリキュラムを通じ、夏休みの思い出やたくさんのお友達をつくってみませんか。参加人員の増加に伴い、今年も2班で計画しています。宿泊旅館の大浴場も今年は楽しみの一つになるでしょう。

ごあんない

★日 程：第1班：平成22年7月27日(火)～7月29日(木)
第2班：平成22年8月 3日(火)～8月 5日(木)

★場 所：群馬県・長野県 上信越国立公園

★旅行代金：29,800円

★申込方法：JAはだの旅行センターへお電話下さい。
※お申し込みの際は保護者の同意の署名と印鑑が必要になります。

★申込締切：平成22年6月末日

★募集人員：各100名(最少催行人員80名)
※定員になり次第締め切らせていただきます。
※対象学年は小学3年生から6年生で、親の同行はできません。
※各カリキュラムは班毎の協同作業となっております。

ご希望の日程をお選び下さい

2泊3日 今年の上信越だ

■ 企 画
 農野市農業協同組合
 組織教育課
 TEL 0463-81-7714

■ お申込み・お問合せは…
 国土交通大臣登録旅行業第939号
 株式会社農協観光代理店
 JAはだの旅行センター
 TEL 0463-81-7710(直通)
 神奈川県知事登録旅行代理店兼委託業第49号
 〒257-0015 伊勢原市平沢4-77
 総合旅行業務取扱責任者：栗原 豊



■ 後 援 農野市教育委員会



夏休み恒例の「JAはだの夏休み子ども村」は、おかげさまで毎回100名以上のご参加をいただき実施しております。大自然の中で自然に親しみ、土に触れ、農業の実態を学ぶとともに、集団生活を通じ、連帯意識の高揚や自主性が養われます。初めての参加、一人での参加でも協同作業を通じてすぐに仲間が増えるよう工夫していますので、安心してご参加下さい。今年も、上信越国立公園(万座温泉・志賀高原)を中心に実施。標高1,800m～2,000mを超える大自然の魅力と北アルプスの絶景を満喫しましょう。



月日	時間	カリキュラム
7/27 8/03 (火)	07:30	JAはだの本所出発
	08:00	東野井IC～(東名・関越・上信越道)～碓氷軽井沢IC途中数ヶ所にて休憩
	11:30	おきのやドライブイン横川店(峠の釜飯の昼食)
	13:15	鎌原温泉(浅間山噴火の生火を分けた映画鑑賞)
	15:00	日進館 万座温泉ホテル到着
	16:00	万座の四季ライドショー(美しい自然と動物達を解説)
	16:45	名探偵子ども村(JAはだの万座をクイズ形式で出題)
	18:00	入浴(癒しの天然掛け流し温泉)
	19:00	夕食(ホテル内でバイキング)
	20:00	恐怖のきもためし大会(ホテル周辺を探索)
21:00	家族への手紙	
22:00	おやすみ	
7/28 8/04 (木)	06:00	起床
	06:30	ラジオ体操・健康チェック・朝食
	08:15	ホテル出発
	08:45	鹿嶋まで371横手山371ルネ(標高2,305m雲の上の世界へ)
	11:00	志賀草津高原道路(北777の絶景ドライブ)
	12:15	JA信州中野青年部の協力で野菜の収穫体験と試食
	13:30	信州中野フルーツランド(昼食・りんご栽培のビデオ鑑賞)
	14:45	JA信州中野アップルシティ(おやき作りと中山晋平童謡合唱)
	18:15	清流夜間瀬川(カジカやドジョウの生物観察・水鉄砲作り)
	19:00	夕食(ホテル内でバイキング)
20:00	ビンゴゲーム大会	
21:00	自由時間	
22:00	おやすみ	
7/29 8/05 (木)	06:00	起床
	06:30	早朝ハイキング・健康チェック・朝食
	08:30	ホテル出発
	09:00	白根山温泉散策(神秘的池を視賞)
	10:20	癒恋牧場(上信越高原の景色をスケッチ作文)
	12:00	昼食・閉村式
	13:15	万座温泉出発
	14:50	おきのやドライブインにて記念のおみやげを買物
	19:30	碓氷軽井沢IC～(上信越・関越・東名道)～東野中井IC途中数ヶ所にて休憩
	19:30	JAはだの本所到着～おつかひまででした～

※上記日程は予定です。交通機関、気候等の事情により変更になる場合もあります。アレルギーのある場合は、事前にお申し出下さい。

別添詳しい旅行条件を説明した書面をお渡します。事前にご確認の上お申し込み下さい。

- ご旅行条件
 この旅行は朝晩観光が企画する旅行であり、この旅行に参加されるお客様とは募集要項に旅行契約を締結することになります。
 旅行代金には次の費用が含まれます。
 旅程に含まれない交通費、食事料金及び個人的諸費用。
 参加者の疾病、怪我等の発生に伴う諸経費及び別行動の手配のために要した食事料を申し立てます。
 運送機関のスケジュールにより行程の一部又は全部が変更になる場合もあります。代金は平成21年4月20日現在にて算出しておりますので運送機関等の値上げがあった場合には変更することがあります。
- 旅行代金
 ①旅行開始日の20日前から8日前まで……………5,960円
 ②旅行開始日の7日前から2日前まで……………8,940円
 ③旅行開始日の前日……………11,920円
 ④旅行開始日当日……………14,900円
 ⑤旅行開始日当日及び前日不参加の場合……………29,800円
- 旅費事項
 天災事変、同業他業など不可抗力、盗難・傷害・疾病などで、お客様の放棄または過失、法令、公序良俗に反する行為、運輸・宿泊機関等の責、以上いずれの事由に生じた損害、その他の事項は国土交通省認可の旅行業務約款によります。

どんな体験??

●日進館 万座温泉ホテル

乳白色の湯色と木のやさしい感触が自慢の温泉宿。標高1,800Mの高所にあり真夏でも20～25℃と涼しい。



●波峠・横手山

ゆっくりと歩く歩道とリフトに乗り、雲の上の空中散歩を楽しみながら、ニコウキスゲなどの高山植物の花畑を視賞します。鳥のさえずりを聞きながら、上信越国立公園のパノラマを体験しよう。



●夜間瀬川水遊びと水鉄砲作り

美しく安全な夜間瀬川で水遊びや生物観察を楽しみます。中にはカジカやドジョウがいるかも!



■ 旅行企画・実施 国土交通大臣登録旅行業第939号
 (株)日本旅行業協会正会員 ホント保証会員
株式会社農協観光 神奈川県知事登録旅行代理店
 TEL0463-93-3151
 〒259-1142 伊勢原市田中250
 総合旅行業務取扱管理者：田代 健・阿久津 俊一

■ 旅行のお問合せは…
 国土交通大臣登録旅行業第939号
 神奈川県知事登録旅行代理店兼委託業第49号
株式会社農協観光代理店
 JAはだの旅行センター
 TEL 0463-81-7710 〒257-0015 伊勢原市平沢477
 総合旅行業務取扱管理者：栗原 豊

課題候補 3

【JAファーマーズ・マーケットを活用した 交流の展開】

A) 生産者と消費者の「交流の拠点」として
の機能を発揮することが必要である。

課題候補 3

(1) 理由

- ① 生産者と消費者の「顔の見える関係」を築くためである。
- ② つくり・育て・採り・食べる喜びを感じることができるJAらしい拠点展開・付加価値づくりが必要である。

課題候補 3

(2) 現状・事例

- ① 大型農産物直売所の競合が激化している。
- ② 単なる農産物の販売にとどまっており、スーパー等との差別化が明確でない。
- ③ JA食農教育における「食」の役割を発揮できていない。

課題候補 3

(3) 懸念されること

- ① 消費者に地産地消の意義を伝える機会がなくなる。
- ② 民間スーパー等との差別化がはかれない。
- ③ 商圏の拡大をはかることができない。

課題候補 3

【JAファーマーズ・マーケットを活用した 交流の展開】

B) JAファーマーズ・マーケット間の物流のみならず、生産者および消費者の交流を促進することが必要である。

課題候補 3

(1) 理由

- ① 生産者相互の交流による意欲や技術の向上
- ② 消費者の産地での生産者との交流によるJAグループ全体での取り組みに対する理解促進。

課題候補 3

(2) 現状・事例

- ① 物流間の取り組みに限られており、消費者または生産者の交流はあまり行われていない。
- ② 実施している場合でも生産者同士の交流にとどまっており、消費者の交流には至っていない。
- ③ 農協観光では都市部のスーパーの主催する産地見学ツアーを実施したことがある。

課題候補 3

(3) 懸念されること

- ① 地域外の農産物を取り扱うことへの理解がはかれない。
- ② 農産物に対する安全・安心の面で、消費者に不安を与える可能性が生じ、地産地消(安心感)をうたう店舗全体のイメージに影響を与える可能性がある。

課題候補 3

(4) 解決に向けた整理の方向

- ① JAおよびJAグループの交流拠点計画
(JAホクレン 食と農のふれあいファーム「くるるの杜」)



課題候補 3

(4) 解決に向けた整理の方向

- ② 出荷先直売所での出荷元生産者による販売体制の整備。
- ③ 直売所間提携を促進する体制を整備。
- ④ インショップ、商店街、アンテナショップ等を利用する消費者と生産者との交流の把握。
ハッピーロード大山商店街
全国ふる里ふれあいショップ 「とれたたて村」
(※参考資料に詳細を記載)

課題候補 4

【貸農園・体験農園の整備・活用】

貸農園等の開設・整備をすすめ、一定の地域を往来する都市農村交流を促進する。
これに伴う滞在施設の整備、二地域居住への展開等についても検討する必要がある。

課題候補 4

(1) 理由

- ① リピーターを確保する上で有効な取り組みである。
- ② 休耕地を活用による景観・環境等の保全に有効である。
- ③ 一定の経済的な効果も期待できる。

課題候補 4

(2) 現状・事例

- ① 補助事業で実施されたクラインガルテン等の事例はあるが、施設の保守に負担がかかりすぎている。
- ② 地域内の市民農園が中心となっていて、地域外を受け入れる貸農園・体験農園を開設する意義が整理されていない。
- ③ 農協観光では都市部のスーパーの主催する産地見学ツアーを実施したことがある。

課題候補 4

(3) 懸念されること

- ① 法改正による規制緩和が進むなか、行政やJA以外が主体となる取り組みが増加してくる。
- ② 休耕地の増加に対する解決策を見出すことができない。

課題候補 4

(4) 解決に向けた整理の方向

① 神奈川県大井町における農協観光協会的事例

～あしがらの里 体験農園～

農業体験農園とは？

従来の市民農園とはまったく違う発想のもと、栽培の段階から市民・消費者が参加できる形態をとる農園として、開設者(園主)が耕起や作付計画の作成、施肥・農薬散布の方法と時期、収穫期に至るまで細かく入園者に指導するため、初心者でも安心して農作業ができるだけでなく、安全・安心な農産物の栽培などを通じて、農業の理解促進に大きな役割を果たしています。



課題候補 4

(4) 解決に向けた整理の方向

② 定年帰農者と耕作放棄地を活用した JAはだの「さわやか農園」の事例

秦野市内には、JAはだのが開設する市民農園「さわやか農園」や農家組合が開設する「ふれあい農園」があります。自然とふれあい、気軽に農業を体験できる市民農園を体験できます。

1. 所在地 秦野市内各地区
2. 総区画数 31農園 298区画
3. 募集対象 県内在住の方
4. 利用期間 3月1日から翌年2月末日の1年間（継続利用も可能です）
5. 利用料 年額 6,000円～／1区画100(原則)
6. 利用区画 1区画以上(100)
7. 申込書 はだの都市農業支援センター・各支所・支店に備えています。
8. 申込先 はだの都市農業支援センター・各支所・支店
9. 利用施設 水道・トイレ・農機具等の貸し出しはありません。(畑のみの貸し出し)
10. その他 申込を希望される方は、別紙利用者心得を必ずお読みの上、お申込ください。

課題候補 4

(4) 解決に向けた整理の方向

③ JTBと相模原市のボランティア団体が実施する 「宿借(やどかり)」農園の事例

農地近隣の宿泊施設に繰り返し宿泊することを視野に入れた「宿・借農園」宿泊プランを発売

JTBグループのエコツアーブランド「GREENSHOES」を牽引するJTB関東は、神奈川県相模原市藤野地区の遊休農地が整備され、週末には農業指導員の指導がつく19区画の農園販売が開始されるのを機に、農地近隣の宿泊施設に繰り返し宿泊してすることを視野に入れた「宿・借農園」宿泊プランを7月6日から発売する。

新しい旅の楽しみ方として、幼児・小学生を持つ30代の都会の家族連れの夏休み向けや団塊の世代向け、環境に配慮した新しい企業の福利厚生プランとしての需要を見込む考え。

JTB関東は、2007年からカーボンオフセット付の旅行商品、パーキング、リフト券、クオカード、DMなどを開発・販売し、延べ15万人以上の参加実績があるという。2008年から、カーボンオフセット付の旅行商品に加え地域経済の活性化と食料自給率アップに貢献できる商品開発を、農業体験や民泊受入れで実績のあるLSプランニングと、神奈川県相模原市藤野町エリアの全面的な協力のもと展開してきたとのこと。将来は日本各地での展開も視野に入れ、藤野エリアを発祥とする「地球を感じる新しい旅のスタイル」の普及を研究・開発していく考え。

神奈川県相模原市藤野地区は、都心から63km、相模湖畔に位置しながら自然豊かで神奈川の水源を守る町。にほんの里100選に選ばれた佐野川地区の風景、ゆずの里、ほたるの舞う清流。都会との交流の柱となっている野菜収穫、マイ箸作り、うどん打ち体験等々とそれを支える温かな心を持つ地元の人々が魅力の町となっている。(2009年7月ニュースより)

課題候補 5

【JA女性組織と連携した取り組み】

得意分野を活かした女性らしい受入体制
の整備

課題候補 5

(1) 理由

- ① 農家体験・料理体験・加工品体験においては女性の活躍が必要である。
- ② 都市農村交流は、加工品生産販売・農家レストラン等の起業に結びつくことが多い。

課題候補 5

(2) 現状・事例

- ① 女性組織の活動が都市部の人たちに広く知らされていない。
- ② 女性組織の活動計画において、都市農村交流の具体的な取り組みが明記されていない。

課題候補 5

(3) 懸念されること

- ① 女性組織が都市農村交流に取り組まなくなる。
- ② 都市農村交流の取り組みには女性の力が不可欠であり、取り組みが大きく進めることができない。

課題候補 5

(4) 解決に向けた整理の方向

- ① 女性部が実施する都市農村交流における役割の整理
- ② 女性(グループ)が経営する農家レストラン・加工品生産の事例
 - ・秋田市 農家レストラン地張庵

